

< 川越市 >

新型コロナウイルス蔓延…この緊急事態に備えてと…

市民からの善意の寄付を断った川越市…

ところが不動産業者からの寄付を受け取り絶賛する川合善明市長…

行政の大義を失った誠意なき男の独走…

先月4月中旬のこと、心ある市民A氏が川越市に「レインコート 300 枚の寄付」を申し出た。すでに政府から緊急事態宣言が発令され、国民それぞれが「自分はどうしたらよいのか」と危機意識を抱くなか、市民A氏は新型コロナウイルスとの「死闘に立ち向かう医療現場の感染予防」の役に立てばと、レインコート 300 枚を寄付しようと考えた。ところがA氏の国難を救おうとの大義の申し入れを、川越市は門前払い同様に断っていたのである。A氏は市の対応に怒りを禁じ得なかったが、とにかく救援物資の一助になればと、市民団体を探してレインコートを寄付し大いに感謝され、川越市に足蹴りにされた市民A氏の善意は報われた。だが、川越市が寄付の受け入れを断っていたのは、このA氏だけではなかった。

驚くべき川越市の「異常行政」！

本紙が川越市役所を取材したところ、A氏と同じく先月4月期には市に対するレインコートの寄付の申し出が数十件あったことがわかった。

A氏と同様に各市民が「自分たちに来ることはないか」と、国際社会が共有する危機のなかで「せめてレインコートでも何かの役に立つかもしれない」との切実な思いから、市に寄付を申し出たのだ。

実際、レインコートの数はA氏の300枚から、家に1着しかないものを寄付したいという市民たちからの寄付が殺到していたのである。市民たちは自分の生活さえ脅かされているなか、「貧者の一灯」としての寄付を申し出たのだ。それを片っ端から「要りません」と断ったのだから、川越市の行政対応は異常だとしか言いようがない。これら寄付に対する決定は、言うまでもなく川合善明川越市長である。寄付は断れ…それが川合市長の意思決定だからこそ、市の職員はそう応じたはずだ。

だが、一方で川合市長は、特定の市民からの寄付は喜んで受け入れ、なんとそれを「市長の Facebook」において宣伝までしている。

多くの市民の寄付申し入れを門前払いし、

仲良し不動産業者の「会長様」からの寄付は受け取り、

感謝のコメントを「市長」として公言！

「川越市長 川合よしあき」として発信する4月9日の Facebook には次のコメントが投稿された。

『不動産業のAグループのN氏会長様から、マスク5000枚を市に寄贈していただきました。写真が無くて申し訳ありません。行政もマスクの入手が難しく、大量のマスクをいただけることは大変ありがたいことです。このマスクは、新たに母子手帳を受け取りに来られる妊婦さんに10枚ずつ渡します。』

※川合市長は、不動産のAグループとN氏の「実名」を載せている。

この妊婦さん云々の件も、川合市長の発案ではなく、共産党市議からの提議を恰(あたか)も己の意思の如く市民を前に披露して得意面である。

兼ねてから川合市長の Facebook は、到底「市長発言」ではあり得ない常軌を逸脱した書き飛ばし振りが、多くの市民・市の職員からの失笑を買っている。自分の Facebook の何が笑いものなのかさえ、川合市長は理解できないだろう。川合善明という人物は、市長という責任や社会的地位とは真逆のことを平然と公言しても…それが問題発言であることが理解できない男だ。先の Facebook での書き込みには、マスク5,000枚をAグループなる不動産業者の「N会長様」から寄贈されたとある。

真っ当な市長であれば、およそこのような情報発信などあり得ない。

「依怙臆員(えこひいき)」という言葉がある。

「皆に公平ではなく、自分の気に入っている者だけの肩を持つことを言う、

川合善明市長は、これなる「依怙臆員」を実行したのだ。

これほど露骨な行為をした首長は、日本にはいまい。市長とは公職選挙法に基づく政治家であり、市の主権者全体への奉仕者であることが大前提だ。しかし川合市長は、数十件の市民の寄付申し入れを断りながら、他方では「N会長様」だけ市長の Facebook で高らかに感謝を述べている。

一般読者の普通の感覚からみれば、「N会長様」の売名行為に市長自ら手を貸したようにしか見えないだろう。そうでなければ、レインコートの寄付を申し出た市民についても名を割愛するにせよ謝礼を述べ対応の間違いで、寄付を断った謝罪をすることが市長としての常識だ。

しかし川合市長は、心ある市民の多くの寄付そっちのけで「AグループN会長様からのマスク 5,000 枚」は、どれほど仲良しか知らないが手放しで喜び持ち上げる。心ある庶民の真摯な想いに、なんらの感情も抱かない川合善明という片寄った市長の人格が、ありのままに浮き彫りにされている。

良識ある市長…いや普通の市長であれば、仮に寄贈者が市長と親しい関係であれば、市長はそのことを配慮し「市が直接受け取らず医療機関や市民団体を紹介する形」で寄付に対応する。

特に世界的な災禍のときに、わざわざ自分の仲良し業者の名前を前面に押し出す寄贈報告などをやってのける市長の市民に向けた「傲岸無礼」を許してはならない。もっとも、中野英幸県議の関係者による市長の醜態を暴き出した写真にあるように、川合市長は既に新型コロナウイルスの蔓延を目前にした時期に、公費で酒を喰らい嬉々としてホステスの手を握り、カラオケに興じる緊張感を喪失した男なのだ。

市民の代表である市長としての真摯な姿勢の欠片も無い「厚顔無恥」な自分の悦楽しか関心がないのが「川合善明川越市長」の真の姿だ。

市長も「在宅勤務」で新型コロナウイルス対策？

4月15日付「川越市長 川合よしあき」の Facebook では、以下の書き込みがある。

『市役所では、出勤者を減らす取り組みを始めました。特別職も、交代で在宅勤務することにして、昨日は私が在宅勤務しました。』

濃厚接触者を減らすためとは言え、市長が在宅勤務とは呆れ果てるというより怒りが先行する。そもそも広い市長室にいる市長が、濃厚接触者になる危険性は市庁舎で最も低いはずで、それでなくとも国が緊急事態宣言を発令中に市長が率先し、陣頭指揮を執るのは当然である。

記憶に新しい2017年（平成29年）台風21号の時も、川合市長が自宅でテレビを視ていたという。市長という重責を放棄し、緊迫した状況に対応する戦意を喪失し、市庁舎で台風対策に取り組みず自宅でボンヤリ時を過ごしていた情景が目につく。

職員諸氏の姿勢には緊迫した情勢に対応する心構えがあっても、上からの指示が在宅勤務では職員諸氏も気が抜けるのは無理もない。

4月27日より越谷市では、市医師会がドライブスルーPCR検査の運用を開始した。この検査は希望者ではなく、医師が感染の疑いがあると判断した患者に限られるが、保健所の負担を軽減するためのものである。

川越市でも市医師会がドライブスルーPCR検査の実用に向けて、現在準備を行っているとの情報もある。それでは、川越市行政は何をやっているのか。今のところ…これといった政策は聞こえてこない。

それも道理で、社会を想う市民の寄付を門前払いにしながら特定の仲良し業者からの寄付は、公職者の情報発信として個人宣伝同然に持ち上げ、緊急事態宣言下の自治体行政を在宅で指揮するという川合市長には、新型コロナウイルス対策などは関心事ではないのだ。

ウイルスの猛威は、何時か終息を迎える。しかし、川越市民にとって**「自分のことしか関心がない市長」**は、ある意味ウイルスよりも脅威だ。

川合善明市長の姿勢にムカムカとした怒りを腹に抱える市民が多くいることを……彼は自覚していない。新型コロナウイルス蔓延の最中、自分の立居振る舞いに気を配ることに精一杯な市民…そうした市民の混乱・困惑の中で、他の人の為に心を尽くす市民の方々の「善意・心温まる行為」を無下にした川越市行政。

その長たる人物の指揮下にある職員諸氏に川合善明市長存在の「重圧にへたる」ことなく、市民福祉の向上に誠意を以て対応されるよう祈念する。



新型コロナウイルス蔓延を目前に「緊張感…責任感…」を喪失した

川越市長の市民の税…公費で悦楽に浸る夕べ